バリアフリー教室（佐久平浅間小学校）

国土交通省

実施概要

日　時：令和７年１２月３日（水）９：２５～１２：１０
場　所：佐久平浅間小学校（長野県佐久市長土呂）
主　催：北陸信越運輸局
対象者：佐久平浅間小学校６年生　３０名

佐久平浅間小学校の生徒を対象にバリアフリー教室を開催しました。講演者には、ご自身も車椅子ユーザーで多方面で活躍され現在では家族の日常をYouTubeに投稿などされている寺田ユースケ氏をお呼びし、「ユニバーサルツーリズム・・高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行について」をテーマにお話をして頂きました。また、佐久市社会福祉協議会より車椅子の基本操作等について説明いただきました。
そのあと、ノンステップバスによる乗降体験と校内を車椅子で点検する体験を実施しました。小学生はバスに乗る機会が少ないので興味津々でした。校内体験では、班ごとに玄関やエレベーター、水飲み場を車椅子で回り困ることはないか、なにが必要なのかを考えてもらいました。
今回のバリアフリー教室を通じて、障害の有無にかかわらず、お互いが支え合い、誰もが安心して生活できる「心のバリアフリー」の大切さを学びました。

休暇時間には、
子供たちからサイン
攻めにあい、大人気
な寺田さんでした。



講演の様子



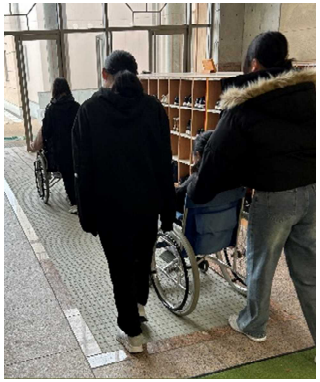




体験の様子





















生徒さんからの声

国土交通省

1 ～寺田さんこ講演から～

・何があっても挑戦し続けることが大切だと思った。
・車椅子の方は旅行に行くにも健常者の方に比べて調べることがたくさんあり大変だと思った。
・障害を抱えている人の気持ちを改めて考えることができ車椅子の方に会ったら、声を掛けたりして助け合っていこうと思った。
・車椅子は７cmの段差も超えられないことが分かった。
・座ってスキーが楽しそうだからやってみたい。
・車椅子ユーザーでも協力があれば長距離や全国も車椅子で回れることを知って、私も協力できたらしたい。
・阿智村に車椅子で温泉に入れることを知った。

2 ～バスによる車椅子乗降体験から～

・車椅子の方がバスに乗りやすいようにスロープなどが整備されていたとしても1人で乗り降りすることは難しいことだと思った。
・段差が少しでもあると前輪を上げないといけないのが難しかった。また乗っている人を持ち上げる時はとても重かった。
・車椅子ユーザーがバスに乗車する時、安全のためにシートベルトで固定することが分かった。また固定するには時間がかかるけれど必要だと感じた。
・車椅子ユーザーにとって段差は強敵だ！

3 ～車椅子で移動する校内体験から～

・学校には多目的トイレやエレベーターなどバリアフリーの設備もあるけれど実際に車椅子に乗って移動すると水道やドアの開閉など難しいところもいくつかあった。
・バリアフリーの設備があるだけでスムーズに動けた。また、車椅子の方が普段どのように日常生活を送っているのか当事者目線で知ることができた。
・車椅子で校内を回ると、多目的トイレが狭かったり、電気のボタンが届かなかったことが分かった。もっと設備が整うといいなと思った。

4 ～車椅子利用者にどのような声掛けが必要かな～

・車椅子ユーザーが驚かないように目に入るところに動いて優しく笑顔で「お手伝いしましょうか」と尋ねる。
・動き始めるときや上がるとき、下がるときに急に動くと驚いてしまうので「動くね」「上がるね」「下がるね」と積極的に声を掛ける。
・場合によって私自身ができないこともあるけれど困っている人がいたらできるだけ声を掛けて手伝う。
・まず、手伝うかどうかを聞く。反応に応じて、１つ１つの行動を声で伝えることが大切だと思う。